



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2013.11

No.355

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



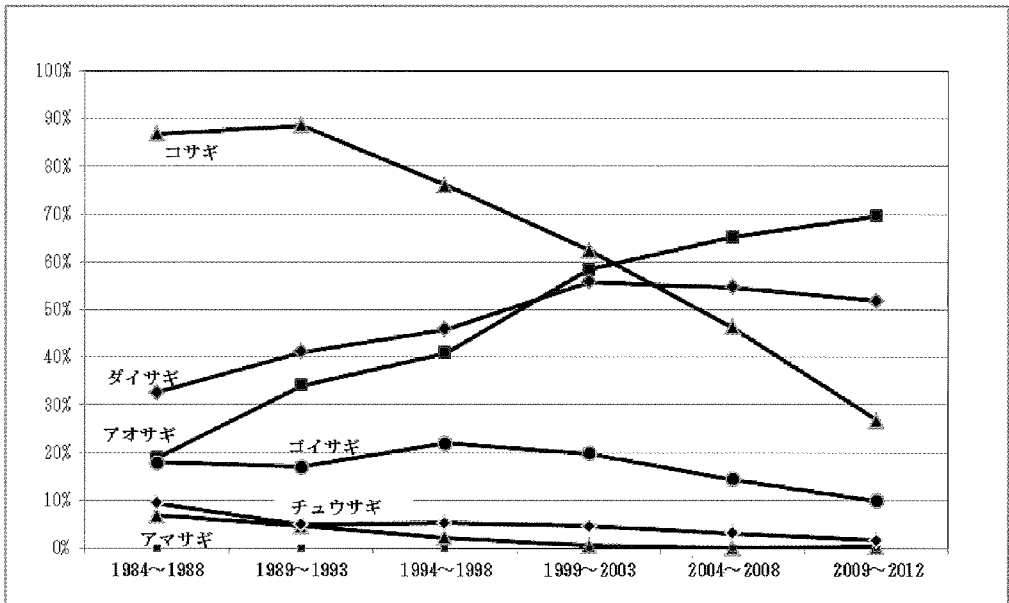
サギ類出現率の変化

日本野鳥の会埼玉の探鳥会記録より（*その4）

山口 芳邦（新座市）

下のグラフは、1995年以前から現在まで継続している埼玉県内26探鳥地の探鳥会（右ページの表）で記録されたおもなサギ類の出現率の変化を表したグラフです。個々の探鳥地をみるとグラフ通りとはなっていない場合がありますが、全体としては埼玉県内の傾向を表しているとおもわれます。

今回は変化を提示するだけですが、なぜこのようになってきたのか、みなさんのフィールドを含めて考えてみてはいかがでしょうか。



*夏鳥のチュウサギ、アマサギについても冬期を含んだ集計にしています。したがって、冬期以外の探鳥会では出現率はグラフより高くなります。

探鳥会記録について

☆記録期間 1984年5月～2012年12月（28年8ヵ月）

☆26探鳥地の探鳥会実施回数 1,894回（県内全体の83%）

☆集計方法

5年間の各鳥種の出現回数÷同期間の探鳥会回数×100（但し2009～2012は4年間）

☆種別出現回数（）の数字は「1984～1988」に対する「2009～2012」の比率

ダイサギ	919回	(1.59倍)	一旦増加したがやや減少傾向。コサギとの違いは？
チュウサギ	85回	(0.17倍)	減少が著しい。夏鳥。
コサギ	1,183回	(0.31倍)	減少が著しい。
アマサギ	37回	(0.05倍)	減少が著しい。夏鳥。
アオサギ	959回	(3.68倍)	増加が著しい。何故？
ゴイサギ	321回	(0.55倍)	半減。

調査資料について

サギ類の調査資料については、多くはありませんが、全国的、県単位あるいは個人での報告をインターネット上で探すことができます。私は、まず「コサギ 減少」をキー・ワードとして検索してみました。その結果、サギ類の変化はネット上の情報を見る限り、程度の差はあれ関東だけでなく他の地域でも同じような傾向が見られるようです。

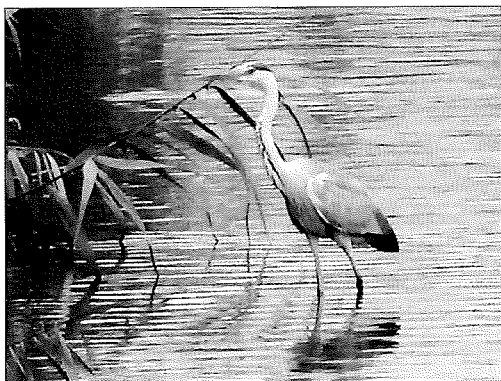
埼玉県は全国的に見ても開発による宅地化や都市化が最も急激に進んできた地域の一つで、サギ類にとっては厳しい環境変化にさらされてきているといえます。このままですとこれからもサギ類にとって、生存できる環境が一層少なくなっていくことが懸念されます。

ネット上の報告等にあるサギ類の減少のおもな原因は次のようなものがあります。

- 1, 開発その他の理由による集団繁殖地の減少。
例えば埼玉県については1992年の14カ所から2003年は5カ所に減少した。(埼玉県環境科学国際センターのホームページより)
- 2, 開発その他による水田、用水等の減少。
- 3, 水田の水路構造変化や農業による、餌の減少。

集団繁殖地と採餌場所は強い結びつきがあるようです。集団繁殖が可能な森や林、子育てに必要な餌をとれる場所がセットで近くにあることも重要で、両方を護ることが大切になります。それにしてもアオサギだけは何故増え続けているのでしょうか？

右上表は1995年以前に始まり、現在まで継続している県内26カ所の探鳥地です。これ以外に1996年以降に開始し、現在も継続している県内探鳥地が10カ所あります。これらの探鳥地は河川、用水、湖沼、丘陵、森林、草原、田畑、その他種々の環境要素・特性を含んでいます。



アオサギ(プリングマン・ウィリアム)

[26探鳥地名と開始年月]

	探鳥地名	開始年月
1	さいたま市秋が瀬公園	1984.05
2	さいたま市三室地区	1984.05
3	熊谷市大麻生	1984.05
4	加須市渡良瀬遊水地	1984.10
5	本庄市坂東大橋	1984.10
6	所沢市狭山湖	1985.01
7	長瀨町宝登山	1985.03
8	長瀨町長瀨	1985.03
9	志木市柳瀬川	1985.11
10	さいたま市さぎ山記念公園	1985.12
11	久喜市久喜菖蒲公園	1986.01
12	蓮田市黒浜沼	1986.02
13	坂戸市高麗川	1986.07
14	東松山市物見山	1986.10
15	北本市石戸宿	1987.04
16	滑川町武蔵丘陵森林公園	1987.01
17	上尾市丸山公園	1988.02
18	川越市西川越	1990.01
19	狭山市入間川	1990.07
20	さいたま市大宮市民の森	1993.02
21	行田市さきたま古墳公園	1993.02
22	深谷市仙元山公園	1993.02
23	さいたま市民家園周辺	1995.10
24	春日部市内牧公園	1995.01
25	さいたま市見沼自然公園	1995.03
26	寄居町玉淀河原	1995.03

これにしてもアオサギだけは何故増え続けているのでしょうか？

これらを合わせて一つの多様な環境・特性をもった地域として捉えることができると思います。

記録は「何羽いたか」でなく、単に「いたかどうか」というものですが、長期にわたる定期定点記録ですので、変化を見るうえでの一つの貴重な資料になり得ます。今後も継続してデータを蓄積していくとともに、それをどう活用していくかが課題になります。

(*探鳥会記録よりその1=2009年1月号、その2=2010年1月号、その3=2011年12月号)

春日部市・コムドリの峙遭遇記

石川敏男(春日部市)

自宅近辺にコムドリ(以下、コムク)の大集団峙が出現! 全く初めてのことでした。以下、観察メモからの抜粋と写真です。

8月29日午後、シラコバトの確認をしに行った帰りの17:45、大沼運動公園南西端にさしかかった折、前方電線にコムク数羽を認めた。道路脇のユリノキにも数羽。ご無沙汰のコムクに去り難く観察を続けると、30羽、50~60羽、或いは100羽程の群れが次々と北から、西から飛来。猛スピードで4本のユリノキに飛び込む。次第に鳴声が賑やかになってきた。同時にスズメの群れも次々と飛来。主に数本のメタセコイアに集まっている。18:15迄にはコムクの飛来はピタッと止まる。ここはコムクとスズメの峙だと思う。地元の方の話では「毎日この時間頃はこんな状況。8月に入ってからかな」とのこと。初めて何う話。自宅近辺なのに全然気づかず不覚だった。約30分間に峙入りしたコムクは2,000~3,000羽と思われた。20:40頃自宅からウォーキングがてら現場へ。24時間営業の薬局(2ヵ所)の明かりで峙の木に止まるコムク多数を視認。彼らの“おしゃべり”はムドリほど騒がしくなく可愛いらしい。

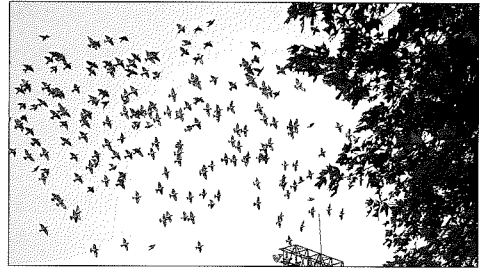
9月2日17:30、コムク峙に到着。17:58に群れの第1波50~60羽が峙入りを開始、第2波以降を記すと100、40、20、10、20、30、20、15、20、30、50、60、15、200、400、20、40、30、120、30、30、300、150、100、20、40、40、15、20、10、25、10、30、15、30、10、40、20、30、15。18:14峙入り終了。単独峙入り個体数の除外、また見落としや誤差を考えると、総数計41波+、2,250羽+。いよいよ以てコムクの大集団峙と確認。

9月3日Kさんの観察により多くのコムクの群れは公園正門近くのメタセコイア並木に一旦集まり、それから群れごとに南西端の峙を目指すことが判明。17:30頃からスズメの峙入りが目立ち始め、同時にコムクも少しずつ飛来したが、まだ本格的な峙入りではなく、ようやく18:00頃群の峙入りが始まり18:10頃には峙入り終了。

9月4日18:00頃峙入り開始、18:15終了。

9月5日17:55約100羽既に峙入り。18:00頃より18:10迄30波+、2,000羽+。

9月6日17:40頃から西方より飛来の群れ



が峙入り。その後、公園内集合の群れが分波して峙入り。曇天で暗く、18:10には終了。

9月7日Mさんによれば、16:45頃から少しずつ峙入り始めたとのこと。17:40頃から本格的な峙入りが始まり、一時1,000羽+の群れが公園内より近づき、峙入りするかと見せて左旋回、近くのケヤキに入ってから分波して峙入り。18:05には終了。

9月9日17:15頃から観察開始。この日はコムクの動きが異なる。メタセコイア並木への飛来数が減ったこと、峙上空を東へ通過する群れがいたこと、峙入りが18:00頃から始まり5分後には終了したこと。この間に10波、約320羽をカウント。皆、東寄りのユリノキ1本に入る。なお、一度峙から飛び出し大きな群れ約400~500羽が東へ去り、暫くしてその片割れと思われる群れが3つほど戻る。峙は昨日より静か。

9月10日17:15~18:15。コムク激減。スズメの峙は健在だが、コムクは群れの飛来なし。少数がバラバラと峙に入る程度。

9月11日17:15~18:15。コムクなし。

早朝の峙立ち。岩槻のOさんの観察では「①9月4日、5時11分500羽、内100+Uターン。13分300羽、19分200羽、21分200羽、22分100羽、23分30羽、すぐ後100羽。②9月7日、5時22分400~500羽が続けざま3回。③9月8日、5時4分過ぎから声大きく隣の木への移動を繰り返す。12分300羽、23分600羽、内200Uターン。10~20秒後800羽。飛び立つ方向は北ないし北西」。

日中の採餌場所。公園周辺ではコムクの集団は見当たらず。9月7日に蓮田市の黒浜沼周辺で10数羽の群れを確認したが、恐らく遠方の林や森で過ごしていると思われる。

地元の方数人からの聞き取りを総合すると、旧盆辺りから集団峙が形成されたようだ。私が遭遇した頃がその最盛期だったと思われる。同じ場所が峙として継続されるかは不明だが、来年を待ちたい。



野鳥情報

越谷市大吉 ◇8月11日から9月28日までシギ・チドリ類の観察を続けた。場所は、昨年まではコスモス畑、今年から水田に転換したが水稲は作らず、水のみ入れた状態。観察日数は、延べ33日。()内は出現した種の日数および最小-最大の羽数。コチドリ(10日、2羽-約50羽)、ムナグロ(12日、1羽-33羽)、トウネン(4日、1羽-3羽)、ヒバリシギ(2日、1羽)、アメリカウズラシギ(1日、1羽)、エリマキシギ(1日、1羽)、アオアシシギ(26日、1羽-4羽)、タカブシギ(7日、1羽-3羽)、イソシギ(30日、1羽-6羽)、タシギ(12日、1羽-10羽)、タシギ属不明種(2日、1羽-2羽)、セイタカシギ(11日、1羽-3羽)。以上12種。なお最大の種数が見られたのは9月14日でコチドリ、ムナグロ、アオアシシギ、タカブシギ、イソシギ、タシギ、セイタカシギの7種。他に人目を引いたのは100羽前後のサギ類の集団、コサギ、アマサギが主体で僅かにダイサギ、チュウサギ、アオサギが混じる(植平徹)。

蓮田市黒浜 ◇8月18日午前10時30分頃、オオタカ1羽、ゴイサギ8羽。ゴイサギが黒浜沼の下沼付近から飛び立ったので、数を数えていると、その中に紛れている違う個体に気がつく。オオタカが悠然と飛翔していた(菊川和男)。

春日部市倉常 ◇8月21日、休耕田でムナグロ20羽、観察中に飛来してタッチ・アンド・ゴウ。水が無くて餌が無いのだろう、すぐに飛び立った。他にイソシギ2羽、コチドリ3羽、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギ、セッカ等(長嶋宏之)。

さいたま市見沼区染谷 ◇8月27日、ヒヨドリ2羽が枝移り。1羽は嘴に何かくわえている。巣立ち雛への給餌と思われる。この辺では、ヒヨドリの繁殖は他の小鳥類よりも遅く、巣立ち雛をよく見かけるのは8月

中旬過ぎ(小林みどり)。

白岡市柴山 ◇8月29日、柴山沼で20羽士の黒っぽいカモが隊列を組んで水面を移動していた。風切羽が換羽中のカルガモの集団だった(長嶋宏之)。

白岡市新井新田 N36. 0438 E139. 6109 ◇8月29日、アマサギ10羽士とチュウサギ20羽士の群れが田圃で首上だけ見せて群れていた。見えなかったサギが10数羽、飛び立つときに加わった(長嶋宏之)。

久喜市菖蒲町小林 N36. 0542 E139. 5966 ◇8月29日、調整池の岸辺で4羽のセイタカシギが休んでいた。その他アオサギ、カルガモ(長嶋宏之)。

鴻巣市屈巢 N36. 0982 E139. 5137 ◇8月29日、尾羽が全部抜けてしまったヒバリが1羽、畦を歩いていた。15羽のサギがガードレールの上に整列。ダイサギ、チュウサギ、アマサギの群れだった。近づくとともに9羽が地面にいた(長嶋宏之)。

春日部市八丁目 ◇8月29日午前11時30分、埼玉葛城農道西側の稲刈りが終わって間もない田んぼでケリ2羽を視認した。他にチュウサギ1羽、アオサギ1羽(石川敏男)。

杉戸町才羽、北蓮沼 ◇8月29日午後1時頃、埼玉葛城農道・北蓮沼交差点の北東角の稲刈り田でケリ13羽を確認。近くに車を止めて近づくときすぐ遠ざかる。警戒心が強いが車にはそれほどでもない(石川敏男)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇8月31日、ヒヨドリの巣立ち雛だろうか、換羽中の成鳥だろうか、梢にとまっていた。9月3日、サシバ5羽のタカ柱。今季初認。その後3羽が輪を描き、内1羽が屋敷林に降りた。今季サシバの初撮りとなった。9月7日、サシバ3羽、オオタカ1羽、ハイタカ1羽。9月9日、サシバ2羽。上空を旋回。タカ斑が良く見えた。今季ここでのモズ初認。9月13日、ハヤブサ1羽、上空旋回後、西に流れた。9月14日、サシバ1羽、屋敷林に入った。9月16日、ハヤブサ1羽、カラスの塀の上空を旋回して西に流れた。9月18日、屋敷林の梢にサシバ1羽。9月24日、サシバ1羽、屋敷林に入った。9月25日、

電柱にタカが止まっていた。昨日のサシバのようだ（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区猿花キャンプ場 ◇9月3日、サシバ1羽、枝にとまる。ここでは初記録。渡りの途中に、近くでお泊りした個体だろう（小林みどり）。

さいたま市見沼区大谷ホタルの里 ◇9月3日、カワセミ1羽、鋭く鳴きながら小川の上をハイスピードで行ったり来たり。時々飛び込むが獲物なし。動きの速い魚を追いかけていたと思われる（小林みどり）。

さいたま市見沼区七里総合公園 ◇9月3日、実をつけた桜並木に、コゲラ、シジュウカラ、エナガ、メジロの混群。センダイムシクイ2羽も混っている（小林みどり）。

さいたま市見沼区南中野 ◇9月6日、カワセミ1羽、日大構内の池を鳴きながら飛ぶ。コムドリ1羽、ムクドリ6羽と共に電線に並ぶ。オナガ5羽＋。幼鳥を含む家族の群れ。いつもの声とは全く違う優しげな声で鳴き合う。幼鳥は体の大きさも尾の長さも親とほとんど同じだが、ゴマ塩頭で、これがまた、かわいい。9月17日、日大構内の池のほとりにコサギ4羽。コムドリ30羽＋、実をつけたムクノキに集まっている。その声はムクドリよりも高めで細いが、ムクドリも似た声を出すことがあるので、声だけの識別は難しそう（小林みどり）。

蓮田市上 ◇9月8日、赤色型のカッコウの仲間が林に飛び込んだ（長嶋宏之）。

川越市伊佐沼 ◇9月9日、午後一番に出掛けたら、沼の奥（北西側）にセイタカシギが4羽（下写真）、一列に並んで採餌中だった（大川清久）。◇9月24日、数日前からかなり水位が下がっていたので、気にし



ていたが、オグロシギ1羽、アオアシシギ4羽、セイタカシギ4羽、クサシギ1羽、イカルチドリ1羽、シロチドリ1羽、インシギ3羽、コチドリ数羽。その他、アマ色じゃないアマサギ、トビが岸边において死魚を補食、桜の木にはツツドリ、コガモ2羽が入っていた。今日は実におもしろい…（石塚敬二郎）。

春日部市一ノ割 ◇9月11日午後5時5分、安之堀川東岸の刈田にチュウサギ14羽、久しぶりの集団だった（石川敏男）。

川越市寺尾 ◇9月11日、調節池でコガモ1羽、ゴイサギ15羽、ダイサギ2羽、コサギ2羽、アオサギ2羽。9月13日、コガモ4羽（藤掛保司）。

さいたま市北区芝川（県道2号線～鷺山橋） ◇9月12日、カルガモ15羽、カワウ2羽。アオサギ1羽、狙いを定めて魚を見事にゲット。オオヨシキリ1羽、水浴びの後らしく、全身を震わせて水を飛ばしている。近くのアシ原でオオヨシキリもう1羽がさえずるが、短くてへたくソ（小林みどり）。

さいたま市緑区三室定例探鳥会開催地 ◇9月14日、翌日の三室定例探鳥会の下見。キジ♂1羽、長い尾が換羽のために抜けて、一見ニワトリのような体形になっている。カルガモもまだ換羽中の個体が多い。モズが盛んに高鳴き。ホオジロ若鳥1羽を含む3羽＋の家族の群れ。先月まで盛んにさえずっていたのに、今はもう静か。他にキジバト、ダイサギ、コサギ、オナガ、シジュウカラ、メジロ、ヒバリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイなど全部で15種。完璧な下見ができたと思ったら、翌日は台風の大雨で中止（小林みどり）。

東松山市物見山公園 ◇9月18日、ノスリが1羽頭上で旋回。メジロ10羽土が赤く熟したウメモドキの枝に群れていた。シジュウカラのさえずりがきれいだった（長嶋宏之）。

表紙の写真

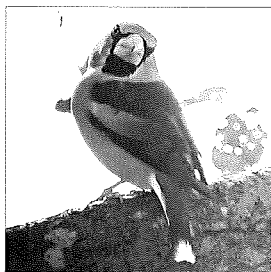
スズメ目ホオジロ科ホオジロ属ホオジロ

晩秋の、私の好きな景色です。

海老原美夫（さいたま市）



行事案内



シメ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月2日(土)

集合：午前8時、丸山公園北駐車場。

交通：JR高崎線 上尾駅西口①番バス乗り場から、西上尾車庫行き(畔吉経由) 7:32 発で「畔吉」下車、徒歩約8分。

担当：大坂、浅見、阿久澤(キ)、阿久澤(廣)、柴田、立岩、永野、野口(由)、山野

見どころ：いよいよ冬鳥の季節。今年はどうな鳥に会えるでしょう。ジョウビタキ、ツグミ、カシラダカ……。荒川土手で富士山を背景にオオタカが飛んだらラッキー！

松伏町・まつぶし緑の丘公園探鳥会

期日：11月3日(日・祝)

集合：午前9時、松伏町まつぶし緑の丘公園管理棟前。

交通：東武伊勢崎線せんげん台駅東口、茨城急行バス③番乗り場から「まつぶし緑の丘公園」行き 8:21 発で、終点下車。

担当：橋口、植平、榎本(建)、小林(善)、佐藤、佐野、進士、田邊、野村(修)、野村(弘)、森下、吉岡

見どころ：池にはコガモ、マガモが勢揃い。木々では、渡ってきた小鳥たちが行き交っています。今シーズンも冬鳥に期待。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月10日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:50発に乗車。

担当：新井(巖)、鶴飼、倉崎、千島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：冬鳥の季節到来。ジョウビタキ、ベニマシコ、ツグミ、シメ……。遠路到着した冬鳥たちとの再会が楽しみです。コハクチョウは今年も来てくれるでしょうか。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：11月10日(日)

集合：午前9時15分、アスレチック広場前・第一駐車場。

交通：東武スカイツリーライン春日部駅西口、朝日バス③番乗り場(三井住友銀行前)から、春日部エミナス行き 8:41 発で「共栄大学入口」下車。西へ徒歩約7分。

担当：石川、佐藤、佐野、進士、野村(修)、野村(弘)、橋口、吉岡、吉安

見どころ：昨年は冬鳥や標鳥がたくさん姿を見せてくれました。特にヒガラが平地でもよく見られたのは記憶に新しい。毎冬、多い鳥、少ない鳥の種類が入れ替わっています。今季はどうな鳥がやってくるでしょうか。思いがけない出会いがあるかもしれません。

※帰路バス：上記バス停発春日部駅西口行 13:07、14:20 (バス時刻は9月現在)

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：11月16日(土)

集合：午前8時15分、JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園駐車場。

担当：浅見、赤堀、工藤、小林(み)、柴野、野口(修)、松村、山田

見どころ：公園とその周辺の農耕地、雑木林での探鳥です。例年より1週間早い開催です。常連のカモたちは来ているかな？ ジョウビタキは待っているかな？

『しらこぼと』袋づめの会

日時：11月16日(土) 午後3時～4時ころ
会場：会事務局108号室

『しらこぼと』12月号を早々と読むことができます。作業の後にお楽しみも少し。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：11月17日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ(注意：担当者は8時過ぎに北浦和東口到着予定です)。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：須崎、青木、赤堀、浅見、楠見、倉林、小菅、小林(み)、柴野、新部、畠山、増田、若林

見どころ：見沼たんぼは11月になると冬鳥の季節に変わります。年々環境が変わってきていますが、今シーズンはどんな鳥がきてくれるのでしょうか。

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：11月17日(日)

集合：午前8時35分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前9時15分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。

交通：東武東上線川越 7:57 発、または寄居 8:04 発に乗車。

担当：千島、新井(巖)、鵜飼、中村(豊)、松下、持丸

見どころ：雑木林、草地、河川敷、田畑でカシラダカ、アオジ、ジョウビタキ、シメ、ツグミなどを探しましょう。猛禽も飛びますので空にも注意してください。

栃木県・奥日光(戦場ヶ原)探鳥会

期日：11月17日(日)

集合：午前11時、湯滝レストハウス前。

交通：東武日光線春日部7:44発快速「東武日光・会津田島」行きに乗車し、東武日光9:22着。または、東武日光線春日部8:03発特急げごん1号「東武日光」行きに乗車し、東武日光9:18着。東武日光駅9:35発東武バス「光徳・湯元」行きに乗車。10:51頃着「湯滝入口」で下車。バス停から集合場所まで徒歩約5分。

解散：午後3時半ころ、戦場ヶ原赤沼駐車場。

担当：入山、石川、玉井、中里

見どころ：湯滝から戦場ヶ原を通って赤沼まで小鳥たちを探しながら歩きます。何が出るかはお楽しみに。

その他：①昼食を必ず持参し、防寒対策をしてください(昨年は小雪が舞い散る中の実施でした)。②探鳥コースは、ほとんど平坦で5km位歩きます。ただし、積雪の可能性があります。③交通費は、東武鉄道「まるごと日光東武フリーパス」が便利(大宮など東武線の埼玉県内はほとんど4,180円)④前日18:50頃のNHKテレビ総合1の天気予報で宇都宮(栃木)の降水確率が40%以上の場合は中止です。その場合、担当者は集合場所に行きません。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：11月21日(木)

集合：午前9時、羽生水郷公園北駐車場。

交通：羽生市福祉バス手子林・三田ヶ谷ルート「ムジナもん号」東武伊勢崎線羽生駅東口 8:05 発、南羽生駅 8:22 発で、「キャッセ羽生・水郷公園」下車。

担当：相原(修)、相原(友)、新井(巖)、植平、竹山、飛田、中川、中里

見どころ：木の葉が舞う季節となり、アシ原には冬の始まりを告げる風が流れていきます。池には常連のヨシガモたちは来ているのでしょうか？ 平日ですが、久しぶりの冬鳥たちとの再会を楽しみましょう。

共催：羽生水郷公園管理事務所

ご注意：帰りのバスの便は14:51発です。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：11月23日（土・祝）

集合：午前9時20分、坂東大橋南詰近くの「つきみ荘」北側。

交通：JR高崎線本庄駅北口から、国際十王バス9:06発、伊勢崎行きで「坂東橋南詰」下車。

担当：新井(巖)、鶴飼、倉崎、小池、田島、千島

見どころ：温暖化のせいか、近年冬鳥の到着が遅くなっている気がします。名物のカモたちは来ているのでしょうか。オオジュリン、ノスリ、チョウゲンボウ、ベニマシコなどかつての常連さんにも会いたいですね。

ご注意：石ころだらけで足場の悪い河原を歩きますので、足拵えはしっかりと。

志木市・柳瀬川探鳥会

期日：11月23日（土・祝）

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅西口、スーパー・サミット前の円形広場。

担当：持丸、佐久間、高草木、荒木、志村、神場、杉原、鈴木、藤澤、中村(治)、中村(祐)、山口

見どころ：今まで柳瀬川対岸のゴルフ練習場の前付近で折り返していましたが、今回は、そのまま直進して新河岸川合流点付近まで探鳥し、志木市役所前で解散の予定です。どんな新しい出会いがあるか楽しみです。

宮城県・蕪栗沼伊豆沼探鳥会（要予約）

期日：11月23日（土・祝）～24日（日）

詳細は、10月号をご覧ください。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：11月24日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:44発、所沢8:38発に乗車。

解散：正午頃、稲荷山公園。

担当：長谷部、石光、久保田、鈴木、高草木、中村(祐)、藤掛、星、間正、水谷、山口、

山本

見どころ：91年11月24日に定例探鳥会としてスタートしました。その時の参加者45名、出現鳥34種。最近ではほとんど見られなくなってしまったハシビロガモ、オナガガモ、ハマシギなどが記録として残っています。河原の様子や見られる鳥たちは少しずつ変わってきましたが、鳥好きの人たちだけは、元気で変わりません。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：11月24日（日）

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。または午前9時、環境学習館前。

担当：玉井、内田(克)、榎本(建)、小林(み)、田中、長嶋、菱沼(一)、吉安

見どころ：黒浜沼周辺は晩秋の装いとなり、葉が落ち始めた木立にはツグミやシメが、黄色になったアシ原にはアオジやオオジュリンなどが北の国から到着しているでしょう。加えて大空にオオタカが飛んでくれるといいですね。

ご注意：車で来られる方は、出発地点の環境学習館ではなく北側に新しく出来た「緑のトラスト保全第11号地黒浜沼駐車場」をご利用ください（環境学習館まで徒歩1分）。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：11月30日（土）

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:21発、南栗橋で乗り換え柳生8:06着。またはJR宇都宮線大宮7:03発栗橋7:38着で、東武日光線乗り換え柳生8:06着。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：佐野、植平、佐藤、進士、田邊、玉井、中里、野口(修)、茂木、山田

見どころ：澄んだ空気の中、遠くの山々が良く見えてくる季節です。遊水地も冬鳥で賑わっているでしょう。カモたちや猛禽類、色鮮やかな小鳥たちを探しましょう。



行事報告

4月21日(日) さいたま市 三室地区

雨のため中止。

(倉林宗太郎)

5月18日(土) 加須市 加須はなさき公園

参加：27名 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ アオサギ カルガモ コアジサシ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ キビタキ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) (番外：ドバト) 芝生広場で採餌するムクドリの群れ、キジバト、スズメを見ながら進む。苗が植えられた田圃をアオサギが飛び、ハシボソガラスが歩いて採餌。ポート池ではカルガモとカイツブリを観察した。植物園に入ると餌をくわえたコゲラを発見。近くで営巣しているようだ。カワセミが川岸の小枝に止まっていて全員で見られた。リーダーの1人がキビタキの♀を見つけ、交代でスコープを覗いて楽しんだ。葦原のオオヨシキリは半数の人が姿を確認できた。鉄塔でカラスが営巣、雛が見えた。遠くでコアジサシが飛んだ。近くで営巣してくれることを願いつつ終了。(長嶋宏之)

5月19日(日) さいたま市 三室地区

参加：73名 天気：晴

カワウ カルガモ オオタカ キジ コチドリ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (22種) (番外：ドバト) スタート早々キジの雄を全員で観察。その後も「鳴くキジ」・「夫婦でいるキジ」・「田んぼを歩くキジ」・「縄張り争いをするキジ」・「足元から飛び立つキジ」等を観察。まさに「キジ祭り」。暑さのため途中でコースを変更し、オオヨシキリやコチドリといった夏鳥は一部の方しか観察できず残念だったが、「三室の5月」を堪能できた。(須崎 聡)

5月26日(日) 狭山市 入間川

参加：27名 天気：晴

カイツブリ カワウ ササゴイ マガモ カルガモ チョウゲンボウ キジ イカルチドリ キジバト コゲラ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ キビタキ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) (番外：ガビチョウ、ドバト) 毎年5月の見どころにしているのはオオヨシキリとササゴイ。この2種が出てくれないと、探鳥会が静かになってしまう。幸い今回は2種ともよく見られ、とくにササゴイはかなり近くで観察することができた。稲荷山公園では、キビタキのさえずりが聞こえてきた。姿は確認できなかったが、入間川探鳥会の初記録。(長谷部謙二)

6月1日(土) 坂戸市 高麗川

参加：30名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ オオタカ コジュケイ キジ コチドリ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) (番外：ガビチョウ) 多和目橋上流の護岸工事が終わり、数年ぶりに川沿いを歩いた。浚渫で水深を深くしたためか、カイツブリが増えたようだ。幼鳥3羽も確認。オオタカが3回出現、猛禽が飛ぶとやはり盛り上がる。最終地点の河川敷でコチドリが我々を見て騒ぎ出した。営巣しているらしい。2004年以来、毎年確認できていたホトトギスが昨年に続き記録できずさびしい。(山口芳邦)

6月2日(日) 北本市 石戸宿

参加：41名 天気：曇

カイツブリ アオサギ カルガモ キジ バン キジバト カッコウ ホトトギス カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ オナガ ハシブトガラス (24種) (番外：ガビチョウ、セキセイインコ) スタートして正面の橋の上から、

右側の湿地に面した斜面の樹で轉るオオヨシキリ。木道ではシジュウカラとコゲラの巣立ち雛。桜堤の先の河川敷では、ブルーのセキセイインコ。高尾の池では、カワセミ。鳥合わせをする学習センターの2階の展望室からもカワセミ。鳥合わせの後で親の後を付いて泳ぐカルガモの雛。いずれもじっくりとは観察させてくれなかったが、カワセミを見たくて親子で初めて参加した男の子は、見る事ができただろう。(吉原俊雄)

6月2日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 37名 天気: 曇

カイツブリ カワウ アオサギ ダイサギ カルガモ オオタカ チョウゲンボウ コジュケイ キジ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) (番外: ドバト) 既に梅雨入りしたが、曇り空で快適な風が吹き抜ける調節池はまさに清閑の夏、繁殖の夏。鳥たちは子育てで忙しいのだろう。鳥合わせでヒヨドリが参考記録になる珍しい結果。(手塚正義)

6月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 42名 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ マガモ カルガモ トビ キジ バン キジバト ツバメ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (21種) (番外: ガビチョウ) 土手に上がると桑の実を食べているスズメ、ムクドリの成鳥・幼鳥がいた。ゴルフ場の中をキジ♀が歩いていた。カワラヒワ、シジュウカラ、ホオジロがさえずり、ガビチョウもにぎやか。河原に下りるとオオヨシキリがさえずり、枝先にとまっていた。カイツブリの成鳥♂♀が幼鳥2羽といっしょにいて、幼鳥が潜水しているところを観察できた。バンも営巣していた。河原に出るとマガモが残っていた。(千島康幸)

6月13日(木) 羽生市 羽生水郷公園

雨のため中止。(相原修一)

6月15日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 10名

相原修一、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、柴野耕一郎、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、吉原早苗、吉原俊雄

6月16日(日) さいたま市 三室地区

雨のため中止。(倉林宗太郎)

7月7日(日) 群馬県板倉町 渡良瀬遊水地

参加: 52名 天気: 曇時々晴

カイツブリ カワウ ヨシゴイ ダイサギ アオサギ カルガモ トビ コジュケイ キジ バン コチドリ コアジサシ キジバト カッコウ ホトトギス コゲラ ヒバリ ツバメ モズ ウグイス オオセッカ コヨシキリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) (番外: ドバト) 猛暑の中でスタートしたが、早々にカッコウがさわやかな声と共に姿を見せてくれた。観察台でオオヨシキリを堪能し、ここから最短コースで第一調整池へ。アシはまだ低く、コヨシキリが良く見られた。ゴルフ場への道に進み、他の鳥達で賑やかな中、何とかオオセッカのさえずりを確認。帰りのコースでは頭の白っぽい、通称、高原モズをじっくり観察。途中、雨も降り出し、お天気には恵まれなかったが、無事に解散地へ。皆さま大変お疲れ様。(佐野和宏)

7月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 26名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ チョウゲンボウ キジバト ホトトギス コゲラ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (20種) (番外: ガビチョウ、ドバト) 本部の若い女性2人が参加し、おじさん達ちよっと元気になる。幸い薄曇りで炎暑というほどでもない。巣材を運ぶスズメのペアや、電線に並ぶツバメの子達を見ながら土手に上がると、オオムラサキが羽を広げてじっとしているのを発見。そばにゴマダラチョウとアカボシゴマダラも止まり、ジャノメチョウが足元を飛び回る。今日は探蝶会? 鳥は少ないが、ホトトギスが盛んに鳴いて、姿も全員が確認。木陰で鳥合わせをした頃から陽がさし、この日も猛暑日になった。夏時間採用は大成功。(新井 巖)



●研究部長交代

9月15日(日)の役員会で、研究部長が小荷田行男から小林みどりに交代することになりました。

小荷田前部長は、当会が支部として発足した1984年(昭和59年)の翌年1985年(昭和60年)7月に部会制度が始まって以来、28年間にわたり研究部長として活躍されました。ありがとうございました。

●探鳥会参加者名簿、調整続く

前月号本欄でご紹介した探鳥会参加者名簿の記入要件について、(公財)日本野鳥の会普及室と保険会社との間で調整が続いていますが、年齢まで記入しなくても良いとの方向で進行しそうです。

回答が届き次第、当会役員会でも対応を決める予定です。

●第 23 回鳥学講座のお知らせ

(公財)山階鳥類研究所と我孫子市鳥の博物館では、ジャパン・バード・フェスティバル 2013 にあわせ、鳥学講座を開催します。

テーマ:「ハシプトガラスは高みの見物〜時々歩きますけどね〜」

講師: 松原始 東京大学総合研究博物館特任助教

日時: 11月2日(土)14:30~16:00

場所: アピスタ(我孫子市生涯学習センター)ホール (我孫子駅南口から路線バスあり)

参加費: 無料

主催・問い合わせ: 我孫子市鳥の博物館(電

話 04-7185-2212)、山階鳥研広報担当(電話 04-7182-1102)。

●普及活動

新ハイキングクラブ主催の行事「野鳥を観る、知る. 7」が、9月28日(土)、北本自然観察公園とその周辺で開催され、22名の参加者に対し、浅見徹、石塚敬二郎、柴野耕一郎、吉原早苗が指導しました。

会員数は

10月1日現在 1,862人。

活動と予定

●9月の活動

9月14日(土)『しらこぼと』10月号校正(海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之)。

9月15日(日) 役員会(司会: 小林みどり、各部の報告・カヌー競技場変更を求める取組み報告会出席者・その他)。

9月22日(日)「埼玉会報だけの会員」に向け『しらこぼと』10月号を郵便局から発送(海老原美夫)。

●11月の予定

11月2日(土) 編集部・普及部・研究部会。

11月9日(土) 12月号校正(午後4時から)。

11月16日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

11月17日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

長崎県の鳥帽子岳と福江島に行ってきた。この辺りは、アカハラダカが北から南へ渡り、ハチクマが東から西へ渡る交差点である。両者が、太古の昔に組み込まれたであろう本能に従って、それぞれの方角を違えずに消えていくのを見ると、無口になっている自分がある。(山部)

しらこぼと 2013 年 11 月号(第 355 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル

(公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社